

登録コード	L2130700	開講年度	2026	
担当教員	伊藤 加奈子	副担当		
授業科目	中国語学・中国文学基幹演習 I			
英文授業名	Chinese Linguistics & Literature: Basic Seminar I			
授業タイトル				
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 水曜・5時限
講義室	人文202演習室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ			
	【2022年度以前カリキュラム対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力		⇔	中国社会の諸相を反映する現代中国語の文章を読み込むことで、様々な表現について理解を深め、またそれを吸収し応用に転じることで自らの文化を発信できる外国語能力を身につける。
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ			
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】		⇔	中国社会の諸相を反映する現代中国語の文章を読み解し、日本の社会・文化との類似点を相違点をについて思索し受容することのできる基礎学力と専門的学力を身につける。
	【2023年度以降カリキュラム対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】		⇔	中国社会の諸相を反映する現代中国語の文章を読み込んで、的確な理解をし、また理解が不十分な点をも認識し考察検討することのできる外国語能力とリテラシーを身につける。
授業で学べる「テーマ」	多文化協働			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	インタビュー記事や新聞記事といった現代中国語言語資料の読解トレーニングを行います。そして単なる意味内容の把握だけでなく、そこから語学的な問題をどれだけ見出せるかを検討、更に補足資料の収集・考察を行います。			
授業計画	第1回：ガイダンス、資料配布 第2回：中国の新聞記事を読解・分析 第3回：受講者による文法ポイント抽出、他の言語資料収集考察 第4回：ミニレジュメ作成・発表 第5回：中国の新聞記事を読解・分析 第6回：受講者による文法ポイント抽出、他の言語資料収集考察 第7回：ミニレジュメ作成・発表 第8回：中国のコラム記事を読解・分析 第9回：受講者による文法ポイント抽出、他の言語資料収集考察 第10回：ミニレジュメ作成・発表 第11回：中国のコラム記事を読解・分析 第12回：中国のコラム記事を読解・分析 第13回：受講者による文法ポイント抽出、他の言語資料収集考察 第14回：ミニレジュメ作成・発表 第15回：後期授業のまとめ、授業アンケート 学生の理解度・内容により、各回の計画を変更することがあり得る。			
成績評価の方法	学生の準備状況・授業での発表内容（5割）と、期末レポート（5割）にて評価します。			
成績評価の基準	・卓越している＝現代中国語の言語資料を精緻に読解する能力があり、語学的な問題を自ら指摘しそれを妥当な分析手段を用いて明確に説明することができる ・かなり上にある＝現代中国語の言語資料を精緻に読解する能力があり、語学的な問題を自ら指摘しそれを説明するために思考を展開することができる ・やや上にある＝現代中国語の言語資料を着実に読解できる能力があり、自ら語学的な問題を抱えていると思われる事例を指摘できる ・その水準にある＝現代中国語の言語資料を着実に読解できる能力がある			
事前事後学習の内容	まず資料をきちんと中国語普通話で音読できるよう、土台となる下調べを着実にすること。理解しているつもりでも、声調が曖昧だったり漢字異読を把握できていないことが頻繁に起こるので要注意。 文章全体の意味を汲み取るのも大事ですが、単語やフレーズ、また文字単位での用法に注意を払いつつ分析する態度が必要となります。 日本語への翻訳に当たっては、文法的知識に基づき出力する態度が常に求められます。			
履修上の注意	受講生の専攻コースは問いませんが、中国語の文法的振る舞いや言語文化といった側面について、どんなに小さくとも具体的な問題意識を持つことのできる、中国語の中級程度まで習得済みである人が望ましいです。 言葉について自覚的に問題意識を持てる人であれば、中国語母語話者も勿論歓迎します。 中国語学・中国文学分野所属の学生には受講を求めます。			
質問、相談への対応	毎週火曜日12:10～13:00のオフィスアワーでは人文学部棟2階で行われている中国語サロンにいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、予めメールで問い合わせてください			

質問、相談への対応	い。 伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。 メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp
教科書	PDFをeALPSにて配布します。
参考書	必要な場合は適宜授業にて紹介します。